

## 合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

### 事例の概要

〈キーワード: 感覚過敏、組体操、小学校〉

A立B小学校6年生のC児は、足裏の感覚が過敏なため、運動会の組体操で裸足にならず、靴を履いて取り組んだ。また、膝や手、その他の部分が地面に触れる際も同様に、痛みを感じやすいため、当該児童が組体操を行う場所にマットを敷くことで対応した。その他にも、心身がリラックスできるように、音楽に合わせて体操することを提案した。

1 対象児童の障害種

知的障害

2 障害の程度

該当(知的障害)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

小学校・特別支援学級

4 学年

小6

5 対象児童の実態

重度知的障害、ダウン症候群である。発達年齢は、4歳程度。学習は、平仮名やカタカナの読み書きや絵本を読む、買い物の仕方を学習する、電卓を使って計算をする等である。ソーシャルスキルトレーニングや紐通し、ねじ回し等の手指訓練も行っている。

6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

- 1 保護者からの申し出
- 2 足等の痛みを感じることを避け、C児に組体操を楽しんで表現させたい。
- 3 保護者及び学校が話し合いを行った。
- 4 組体操の演技において、靴を履くこととマットを敷くことを決定した。

## 7 基礎的環境整備の視点と概要

### 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

C児に対する個別の支援の必要性を周りの児童が理解し、みんなで協力して組体操を作り上げていくことを目標とした。

## 8 合理的配慮の観点と概要

### 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

C児も周りの児童と同じように、組体操で十分に体を動かし、表現できることを目標にした。C児の足や手に感じる痛みを取り除くことで、伸び伸びと身体表現をすることができた。

## 9 成果と課題

C児も周りの児童と同じように、組体操で十分に体を動かし、表現できることを目標にしたため、今回の合意形成に至った。

C児の足や手に感じる痛みを緩和することで、伸び伸びと身体表現をすることができた。また、音楽を流すことで、静と動のタイミングをつかみ、最後まで楽しい気持ちで取り組むことができた。

当該の配慮を行いながら、運動会の練習を重ねるにつれて、当該児童がマットを自分で次の場所に運ぶようになり、C児が友だちと一緒に行動しようとする意欲の向上も見られ、当該児童が行動することで、交流学級等の児童もマットの移動や声かけ等の協働した活動が行われるなど、他児童への教育的効果も見られた。